

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(―は上方に変更、_は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

なし。

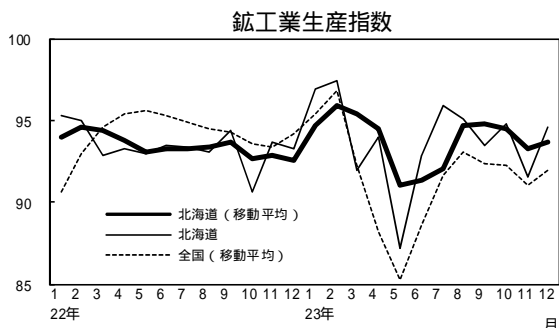
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産、水産物の水揚量ともに前年を上回っている。

10～12月期は、生乳生産は、牛乳等向けで増加したため、総量では957,674tと前年比1.4%増となった。水産物の水揚量(主要8港)は、ほっけ、するめいか等で前年を上回っている。

(2) 鉱工業生産は、持ち直しの動きがみられる。

食料品は、引き続き高水準での生産が続いており、生乳生産の回復等から増加している。パルプ・紙は、低水準ながらも生産は増加した。鉄鋼は、高水準でおおむね横ばいでの推移が続いている。電気機械は、11月にタイ洪水の影響で生産が低下したものの、集積回路のサプライチェーンの回復や携帯向け部品が好調なことから増加基調で推移している。金属製品は、大幅に減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7～9 月期	10～12 月期	10～12 月期	10～12 月期
食料品	23.9	2.1	1.2	1.2	5.0
パルプ・紙	10.7	4.8	3.4	1.7	1.7
鉄鋼	8.6	0.7	3.0	1.0	9.1
電気機械	8.4	3.2	21.6	18.2	24.9
金属製品	8.0	15.4	17.5	16.4	2.1
鉱工業	100.0	3.7	1.7	1.7	0.9

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

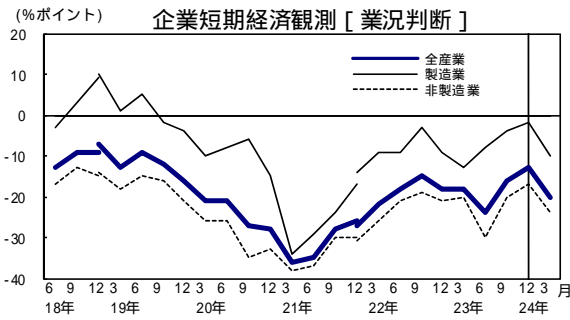
2. 10～12月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。北海道の最新月は速報値。

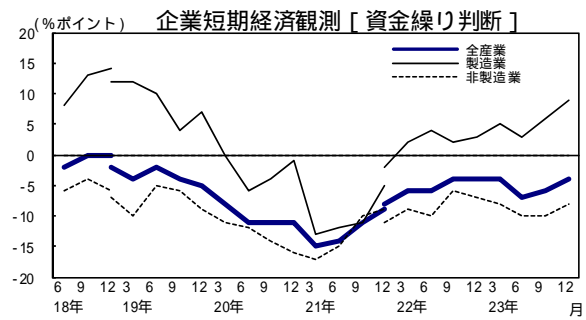
2. 全国及び北海道の太線は後方3か月移動平均。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

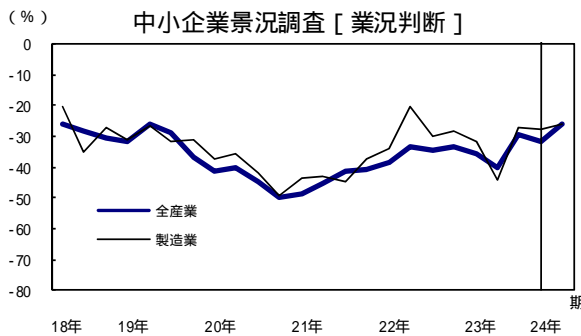
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年3月は予測。18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

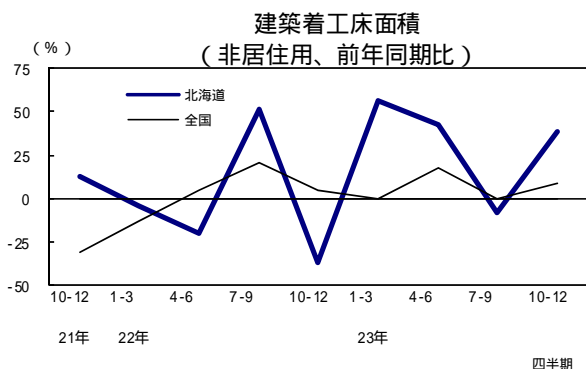
「製紙業製品や医薬品、飼料製品の輸送量が順調に推移している一方で、円高の影響により、輸出スクラップの船積が落ち込んでいる(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(4) 23年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

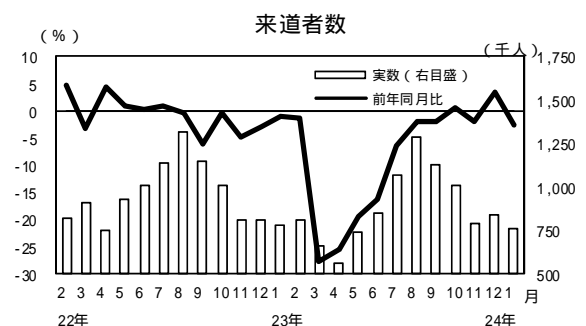
	(前年度比、%)	
	22年度実績	23年度計画
全産業	30.0	13.8(6.4)
製造業	51.9	31.5(1.8)
非製造業	19.8	3.3(13.6)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は、持ち直しの動きがみられる。

来道者数は、10月は本州からの空の便が好調だったほか、鉄道でも修学旅行客が増加したことから前年を上回った。11月はツアー客の減少等により前年を下回った。12月は連休の日並びがよかったことや、鉄道では歌手のコンサートがあったことによる利用客の増加から、前年を上回った。1月は鉄道で前年の反動減が出ている。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

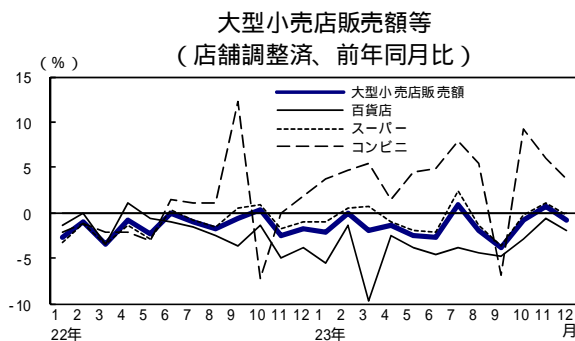
大型小売店販売額

大型小売店販売額は、前年同期比で0.3%減、前期比で0.0%増となった。百貨店は、10月は下旬に気温が高めで推移したこと等により全体としてはやや低調に推移した。11月は月後半に寒くなったことから冬物衣料、食材が売れたことから前年比低下幅が縮小した。12月は前年比低下幅が拡大したものの、日並びの良さや年末のギフト需要が好調であった。

スーパーは天候不順の影響がみられたものの、内・中食需要が好調だったこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(12月)[家計動向関連(現状)]

「行事やイベントを家庭内で済ませる傾向が強まっている。クリスマスは曜日並びが悪く前年を下回ったが、年末は前年を上回った。一方、たばこの売上の伸びは鈍化してきている(コンビニ)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店(*1)	1.4	2.2	1.6	0.3
百貨店(*1)	5.8	3.6	4.2	1.8
スーパー(*1)	0.1	1.7	0.8	0.2
大型小売店(*2)	0.5	0.5	0.0	0.3
(季節調整値)(*3)	(0.2)	(0.5)	(0.5)	(0.0)
乗用車(*4)	23.5	31.2	11.8	25.0
(季節調整値)(*4)	(4.9)	(12.0)	(26.9)	(7.1)

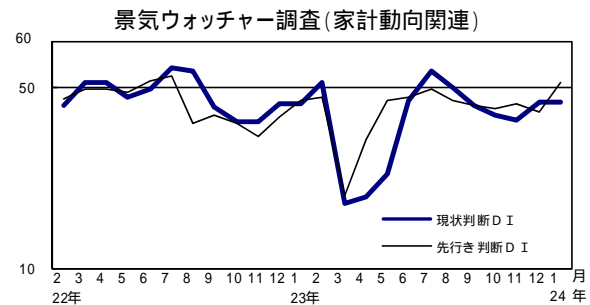
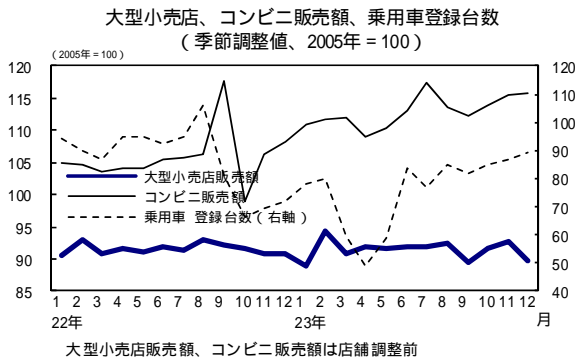
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

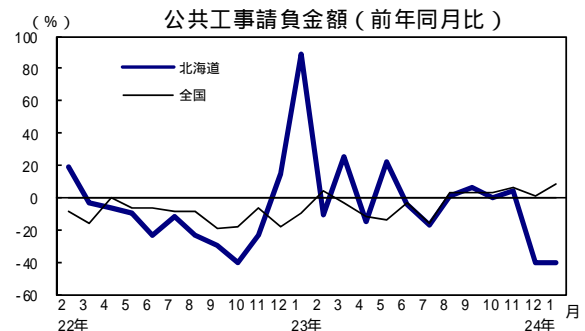
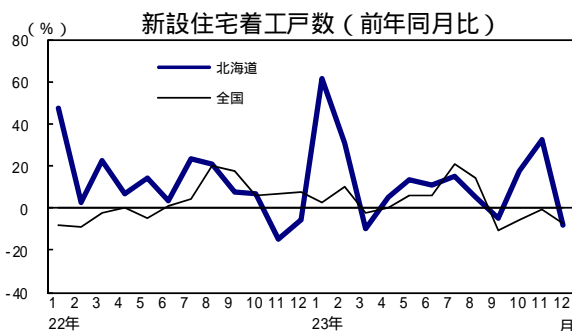
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は増加している。

持家が前年を下回ったものの、貸家や分譲が前年を上回ったことから全体では増加している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度を下回っている。

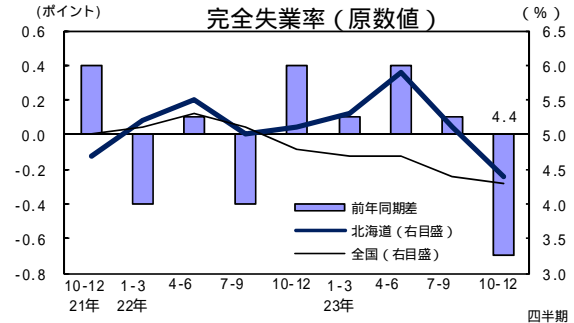
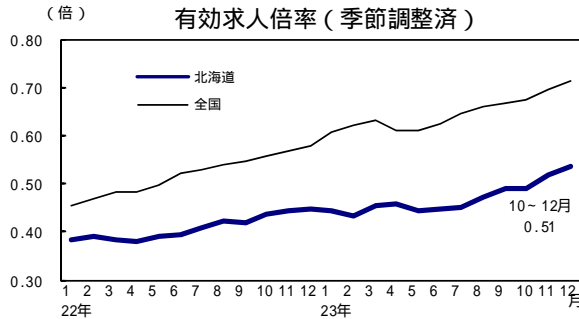


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (12月) [雇用関連 (現状)]

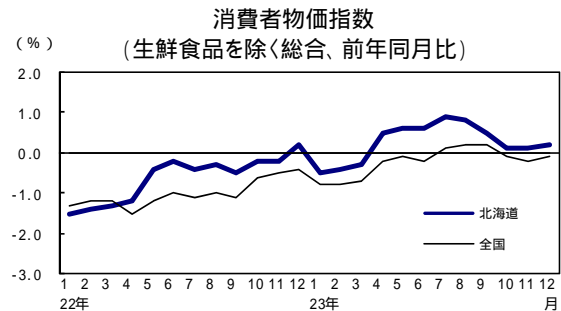
「求人数は微増傾向にあるが、景気が上向いているような良い話を聞かない (求人情報誌製作会社)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	24年1月
倒産件数	125	123	104	102	33
(前年比)	14.7	8.8	6.3	4.7	15.4
負債総額	290	356	287	144	35
(前年比)	16.3	17.0	44.8	40.2	63.8



景気ウォッチャー調査 (1月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・外国人を始めとする観光客が前年と比べて増加している。建設関連では、一部ではあるが復興需要を取り込む企業もみられ、人手不足感が出てきている。個人消費は例年以上の雪と寒さで冬物商品が売れている (金融業)。

<先行き>

・東日本大震災の影響も薄れ、東南アジアからの観光客も戻りつつあるため、今後は外国人観光客による利用増加が期待できる (観光名所)。

